



発行所
和歌山市小松原通1丁目
和歌山県
毎月1回1日印刷発行
定価 1部2円50銭

号外

昭和三十三年二月二十五日発行

学級人員問題につき

県民のみなさんにうつたえる

和歌山県知事 小野真次

快い早春の空の下に梅の花が馥郁と香っています。はじめて学校へ入る可憐な一年生や、進級進学する生徒児童は喜びと希望に胸をふくらませて其の目を今から指折り数えて待っています。父兄の方々の気持もまたそれ以上でしょう。

それなのに此の間から街や広場に先生方が教壇を離れ、大勢団体を組んでプラカードや赤旗を押し立てて大声で歌を唄い示威運動を行って道行く人の耳目をそばだてています。また県庁の入口や廊下、はては私の部屋の前や通路にまでも毎日沢山の先生方が終日ぎつしり一杯になつて、すわり込み(立ち込み)を行い便所へ行くのも容易でない実状を見て私は心から悲しくなりました。若し父兄や一般の人々がこの実状を見たら果してどんな心持になるでしょうか。

その上ハンストと言つて十人近い先生が気の毒にもこの寒空に絶食してまで自分等の言い分を通せと県庁前の空地に坐り込んでいた有様です。

既に県民大多数の方は新聞その他でその原因を御承知と思いますが、要するに先生方の主な要求は、現在一学級の收容生徒は五十五人ですが、これを五十三人にせよというのです。そしてそれを承諾しない私を教育を破壊する知事と断定しているのです。

さて、今日国の財政事情やその配分の不適正に加えて本県は度重なる大災害復旧のために多くの借入金があり、その元利償還等に追られる外、巨額の人件費(最も大きいのは先生の給料の約三十億です)に追まわられ今では全く動きのとれない処まで行つていゝことは、これまでしばしば私が広報其他によつてその内容を公表してみなさんの御理解と御協力を求めているものであり、十分御承知下さつてゐる事と思ひます。

しかも私は県知事として「人を作る教育程大切な政治はない」という信念で今日まで勇敢にこの主義を執行して参つたつもりです。だからおこがましい言い分ですが「私は教育には誰よりも理解と熱意をもつてゐる」とうぬぼれてゐます。このことは今日までの県予算の内容をみて貰ひ、更に他府県の実体と比較検討して貰えばわかつてゐたことであると思ひます。

今問題になつてゐる学級人員の問題も、むしろ私の教育優先を——一部の人のいう教育偏重を証明する材料にこそなれ、断じて教育を破壊する理由にはならないことは次表の全国の小中学校の定員表を見て貰えば歴然としてゐると思ふのです。

和昭31年度1学級当り生徒数調(文部省統計)

区分	一般的な学級のくみ方(単式学級)	生徒数の少ない場合の学級のくみ方								
		小学校		中学校		高等学校				
		単式	複式	単式	複式	単式	複式			
北海道	60	60	58	58	50	58	58	40	40	50
青森	60	60	40	40	—	40	40	29	30	40
岩手	59	59	29	30	—	40	40	—	40	40
宮城	59	59	30	40	40	30	30	30	30	40
秋田	59	59	20	40	—	30	30	—	30	40
山形	59	59	30	40	40	30	30	30	30	40
福島	62	57	15	40	30	15	40	35	35	40
茨城	54	57	40	40	40	29	40	—	30	40
栃木	59	54	—	30	—	40	—	—	—	40
群馬	59	55	20	30	25	20	30	20	20	40
埼玉	60	55	30	40	—	30	30	—	30	40
千葉	63	59	20	40	30	20	30	20	20	40
東京	60	56	26	40	30	26	30	26	26	55
神奈川	58	58	20	35	30	25	30	25	30	30
新潟	60	60	29	40	34	29	40	15	15	40
富山	60	60	15	30	36	15	30	15	15	48
石川	60	60	15	30	25	15	30	15	15	30
福井	60	60	20	40	35	20	40	20	20	40
山梨	60	60	20	40	38	20	40	20	20	40
長野	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
岐阜	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
愛知	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
三重	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
滋賀	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
京都	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
大阪	60	60	20	40	40	20	40	20	20	40
和歌山	55	55	25	30	25	25	30	25	25	30
奈良	56	52	19	35	30	—	30	—	30	35
鳥取	60	57	25	40	35	30	30	30	30	40
徳島	60	57	20	44	40	30	40	30	30	40
香川	60	54	20	40	40	25	40	20	20	35
高松	60	54	30	40	40	30	40	30	30	40
愛媛	60	56	20	40	40	20	40	20	20	35
高知	58	58	25	35	25	25	30	25	25	35
福岡	60	55	—	30	30	—	30	—	30	30
佐賀	61	56	30	40	30	25	40	25	25	40
熊本	60	55	20	30	30	25	30	25	25	40
大分	60	56	30	40	40	30	40	30	30	40
宮崎	60	59	20	45	40	35	40	30	30	40
鹿児島	60	60	20	52	40	40	40	40	40	50
沖縄	59.2	56.8	25.5	39.1	32.0	26.9	37.7			

石の表で明らかになつてゐるように小学校に於て全国平均一学級当り生徒数(単式学級)五九・二人に対し、和歌山県は五五人であり、静岡、愛知は六四人新潟は六三人など他の大半の府県では和歌山県より遙かに多くの生徒を一教室に收容して教育を行つてゐるということがわかります。複式学級についても同様本県が教育上非常に恵まれてゐるということが実証されています。中学校に於ても同様単式、複式、単級それぞれについて本県の教育が他府県に比べて優位にあることがわかります。

無論私は此の状態を以て十分だとは思ひませんが、出来れば一学級を五十人に、更には三十人に減らすことが教育上、より効果的だと思ふのですが、そこは地方財政とのニラミ合せの問題でありますので、せめて他府県と比較して決して劣らない状態を持続しようとする私達の努力が「教育に対する理解」の尺度だと考えていたさうなものです。

そこで私は、ハンストを以て私の反省をうながされましたが、私の信念を枉げることが出来ませんでした。その上、私はハンストを以て人の言う「身体を張つて争う様な柔軟的暴力」が県政を動かすような事があれば、それこそ民主政治の自體だと思ふのです。これが、私が教員組合の団体交渉の要求に対しハンストを解かなければ断じて交渉に応じないと頑張つた理由です。全国府県の大半は赤字再建団体となつてゐます。私は府県が再建団体になることは、自治体として最も悲しむべき事だと思ふのです。本県は自主再建の線でも我慢をして居ますが、内容的には、再建指定府県に比べてむしろより苦しいというのが実情であります。おそらく今後県政の運営において、とくに教育面において、みなさんに御心配をおかけする事が多くあろうと思ひますが、県政全体の上になつて十分御研究の上、御叱正をお願い申し上げます。